

留学から見えた、「世界」と「私」

World Journey

ワールド・ジャーニー vol.1 オーストラリア編



遙かな異国の海辺の街で学んだ、大切なこと。



Once upon a time, in a land far, far away...

My days in the relaxed seaside town of Hobart.

飾らないから心地いい。すぐになじめたタスマニアの海辺の州都ホバートでの日々。

大学のあるホバートは、島の南東に位置する港町。古い倉庫街があったり、海にヨットが行き交ったりとおしゃれです。でも飾った感じはまるでなく、この街に着くなり大好きになりました。



That's an ice coffee? Wow!

アイスコーヒーって、万国共通じゃなかったの!?

お店も多く、レストランでは名物の牡蠣を楽しみました。カフェのメニューでは、ポーチドエッグののったスモークサーモンサンドが大のお気に入り。アイスコーヒーは、日本と違いソフト&生クリーム山盛りのど迫力で、ビックリ仰天!



Friends in need are friends indeed.

折れそうな心を支えてくれたシェアハウス!

授業は少人数で指導も親身。自信をなくして折れかけたときには、時期によって最大12人もいたシェアハウス仲間とホストファミリーに支えられました。ホストファーザー“デニス”には、いくら感謝しても足りません。

ホストファーザー “デニス”



A land of stunning beauty.

目に焼きつく景観美。タスマニアはドライブ天国。

全員で夕食を食べおしゃべりを楽しむのがシェアハウスの日課。寒さがゆるんでからは週末毎にレンタカーでのドライブも楽しみました。ワイングラスベイなど、タスマニアのすばらしい自然が今も目に焼きついています。

Student Voice

英語でたくさんの国の人たちと交流。世界観が一変しました。

堂々と英米語学科生を名乗れるだけの英語力を身に付けようと、留学に挑みました。すばらしかったのは、イラン、オランダ、フランス、スウェーデン、ブラジル、スイス、オーストラリアなど、実にさまざまな国の人たちと心を通わせられたこと。友達づきあいの中で直に感じる文化の違いは新鮮な魅力にあふれ、本質的な部分では人間として響き合えることを実感しました。英語という世界中の人と語り合えるツールを手に入れることによって、報道などのイメージからくらくらする他国への先入観を抱くこともなくなり、もの見方が深いところが変わったのを感じます。

英米語学科4年(現英語学科) 友田 陸帆さん
オーストラリア・タスマニア大学(認定留学) 3年次留学



Professor Voice | オーストラリアはわが母国。人も自然も最高ですよ!

英語は英米の言語である前に世界の共通語。留学先もよりどりみどりで。

大学の4年間はアツという間。将来、グローバルに活躍したいと考える人にとって、単に英語を学ぶだけでなく、英語+αの力を身に付けることをめざして、計画的、集中的、効率的に学ばねばなりません。その点、留学は大変効果的です。たとえ短期でもモチベーションが大きく高まります。本学の英米語学科は2014年4月から英語学科に衣替え、イングリッシュ・キャリア専攻が新設され、「インテンシブ」授業とともに充実度の高い「特別英語」の科目数も従来のほぼ3倍に。そして、

短期留学を実質必修とし、半年から1年間の長期留学の挑戦者も大幅に増やす計画です。アジアや北欧、東欧などの国で英語を学び、その上、第三外国語としてその国の言語を身に付けることも可能です。国によっては費用が抑えられ、経済的なハードルが下がるのも大きなメリットですね。「それほど英語力がない」、「経済的に難しい」などの理由で簡単にあきらめる必要は全くありません。大切なのは意欲です。教員・職員一丸となって、あなたの意欲を全力で支援します!

英語学科 英語専攻 准教授 クラフリン マッシュー

